



災害支援
ふくおか広域
ネットワーク

DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

- 基調講演

-

多様な主体の連携による被災者支援の必要性

FUKUOKA



つながりの変遷（へんせん）から 考える被災者支援

災害・地域・支援・連携の“今と昔”を通して、未来を見つめる



もくじ

- 01 オープニング
- 02 「災害」の“今と昔”の比較
- 03 「地域社会」の“今と昔”の比較
- 04 「支援」の“今と昔”の比較
- 05 「連携」の“今と昔”の比較
- 06 連携事例
- 07 未来に向けて

平成29年7月九州北部豪雨より



災害支援ふくおか広域ネットワーク
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

- ・ 地元応援隊ひまわり設立（現C a m p）_代表
- ・ 民間ボランティアセンター_杷木ベース設立（閉所）_代表
- ・ 一般社団法人Camp_理事
- ・ 杷木ボランティアの会_会長
- ・ 朝倉市ボランティア連絡協議会_会長
- ・ 災害支援ふくおか広域ネットワーク_会長
- ・ 総務省消防庁「防災意識向上プロジェクト」語り部
- ・ 福岡県職員研修講師
- ・ 久留米大学特別演習講師
- ・ 北九州市立大学特別講師
- ・ 小、中学校ゲストティーチャー
- ・ その他_地域防災訓練講師等



災害支援ふくおか広域ネットワーク
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA



災害支援
「ネットワーク」



災害中間支援
「組織」

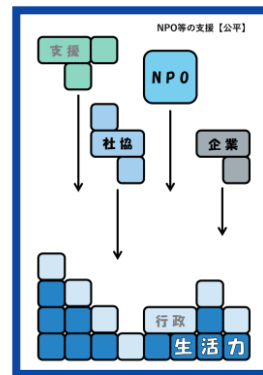
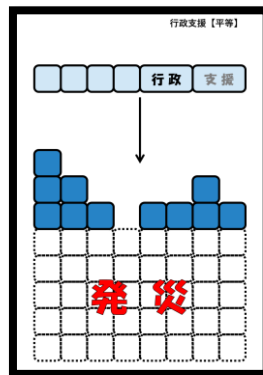
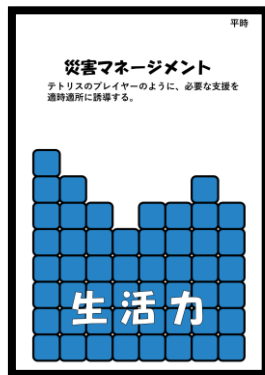
災害中間支援とは



直接支援を支える役割



支援資源の適切な誘導



災害中間支援の効果

緩衝材・接着剤としての機能



フェーズガイドとしての機能



今さら聞けない
災害支援キーワード

自助・共助・公助の違い

防災・減災・レジリエンスの意味

支援・受援の関係

CSR（企業の社会的責任）とBCP（事業継続計画）の位置づけ

自助・共助・公助の違い

自 助

自分の命は、自分で守る。

共 助

近くの人と、助け合う。

公 助

行政や国が、助けてくれる。

防災・減災・レジリエンスの意味

防 災

災害を出来るだけ防ぐ。

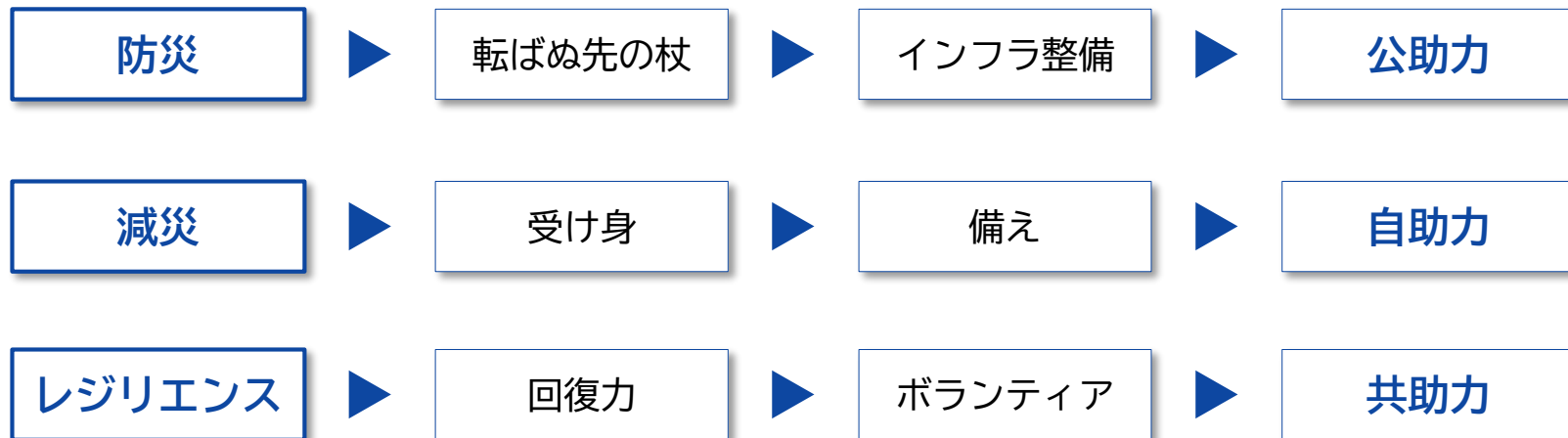
減 災

災害による被害を減らす。

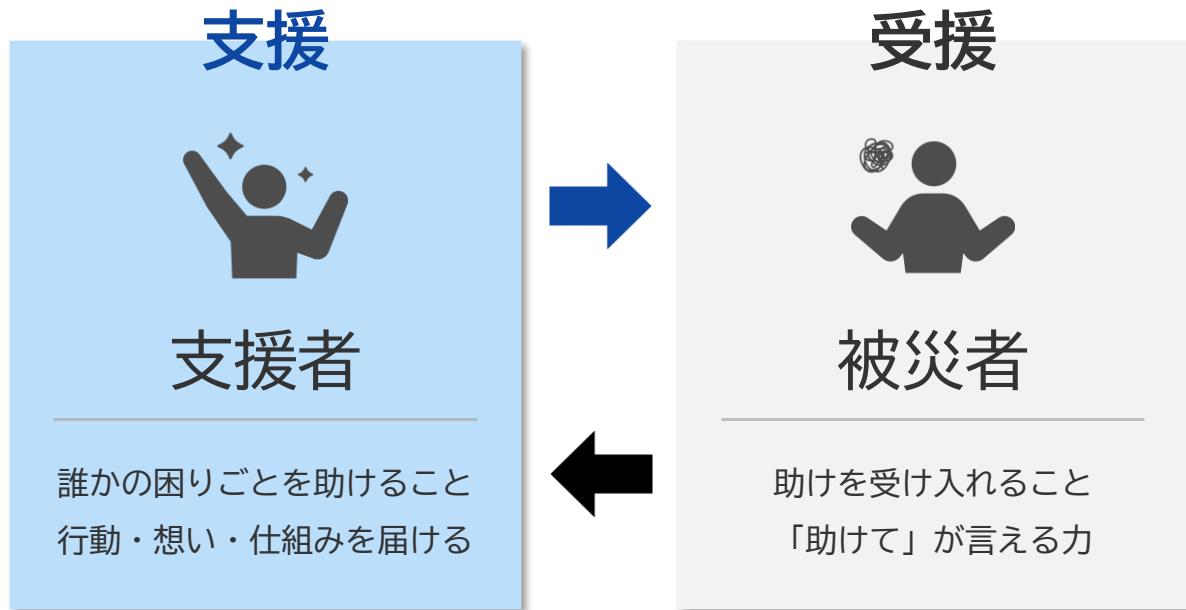
レジリエンス

被害を受けても、立ち直る力。

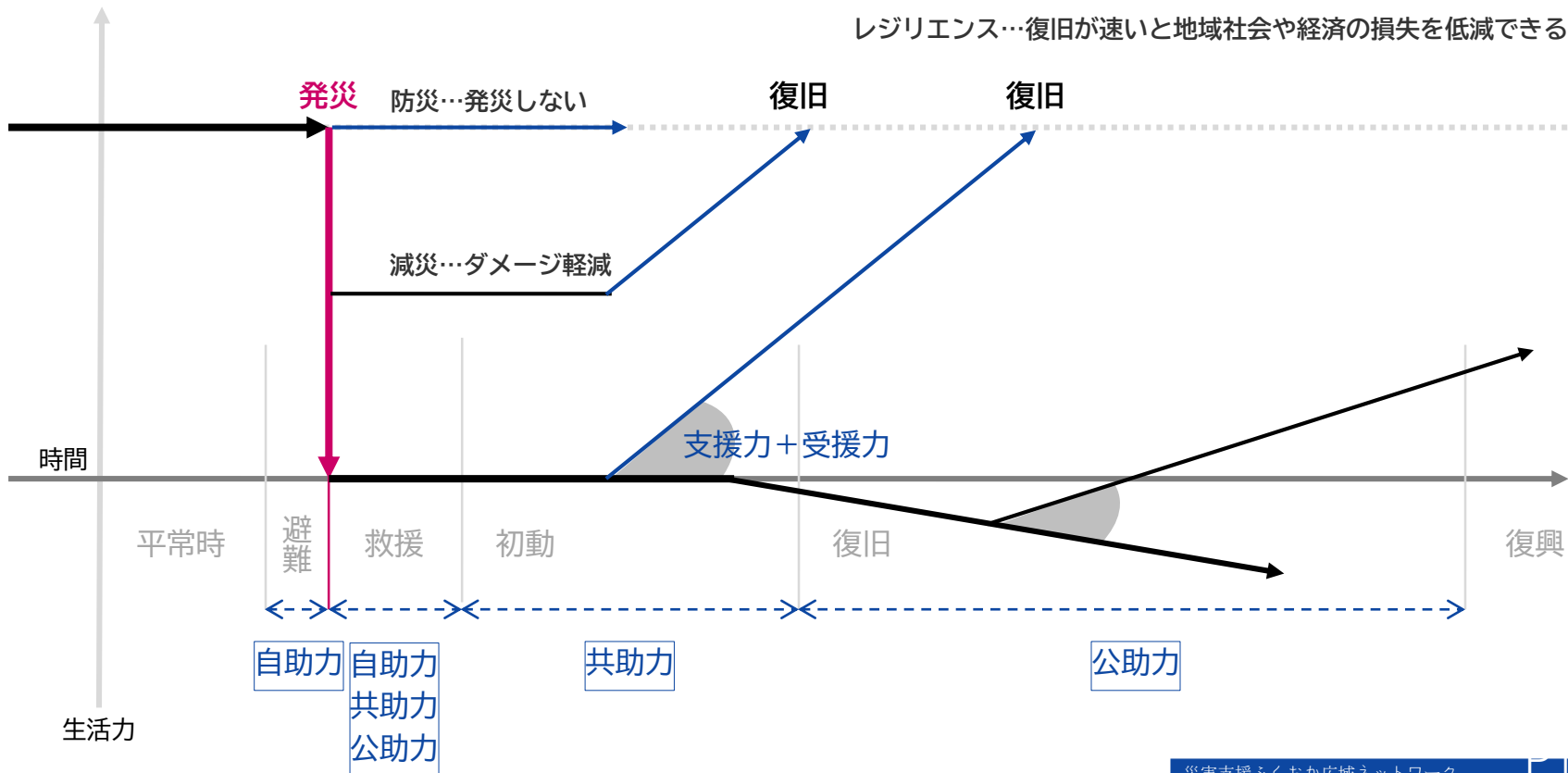
防災・減災・レジリエンスの意味



支援と受援の関係



1. オープニング



CSR（企業の社会的責任）とBCP（事業継続計画）の位置づけ



02

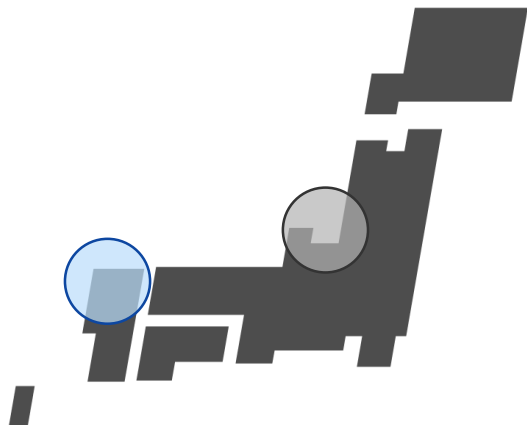
「災害」の今と昔の比較

福岡県の災害1999年から今まで

- ・ 1999年 6月_梅雨前線
- ・ 1999年 9月_台風18号
- ・ 2001年 6月_遠賀川集中豪雨
- ・ 2001年 7月_梅雨前線（豪雨）
- ・ 2003年 7月_前線、低気圧（大雨）
- ・ 2004年 8月_台風16号
- ・ 2004年 9月_台風18号
- ・ 2004年 8月_台風23号
- ・ 2005年 3月_西方沖地震（M7.0）
- ・ 2005年 7月_梅雨前線（大雨）
- ・ 2005年 9月_台風14号
- ・ 2006年 9月_台風13号
- ・ 2007年 7月_台風4号
- ・ 2007年 8月_台風5号
- ・ 2007年 7月_中国・九州北部豪雨
- ・ 2010年 7月_梅雨前線（大雨）
- ・ 2011年 6月_梅雨前線（大雨）
- ・ 2012年 4月_暴風
- ・ 2012年 7月_H24.7九州北部豪雨
- ・ 2012年 9月_台風16号
- ・ 2014年 7月_台風8号
- ・ 2016年 4月_熊本地震（M6.5M7.3）
- ・ 2017年 7月_九州北部豪雨
- ・ 2018年 7月_豪雨
- ・ 2019年 8月_大雨
- ・ 2020年 7月_豪雨
- ・ 2021年 8月_大雨
- ・ 2023年 6月_梅雨前線（大雨）

地震：2回
台風：11回
水害：15回

防災の課題「外水氾濫」と「内水氾濫」



日本海側→外水氾濫

冬に雪が多く降り、夏は比較的乾燥する地域だが、近年夏も多くの雨を降らすようになり河川氾濫（外水氾濫）が発生している。

九州北部→内水氾濫

毎年、出水期は多くの雨を降らす。大きな河川は整備が進んでいるが、支川や生活用水路からの内水氾濫が課題になっている。

2. 「災害」の今と昔の比較

外水氾濫



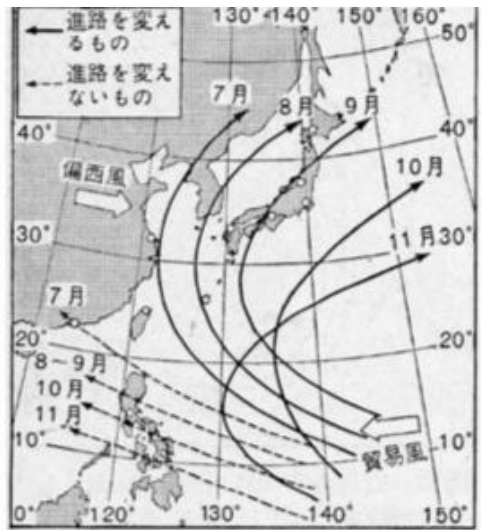
2. 「災害」の今と昔の比較

内水氾濫

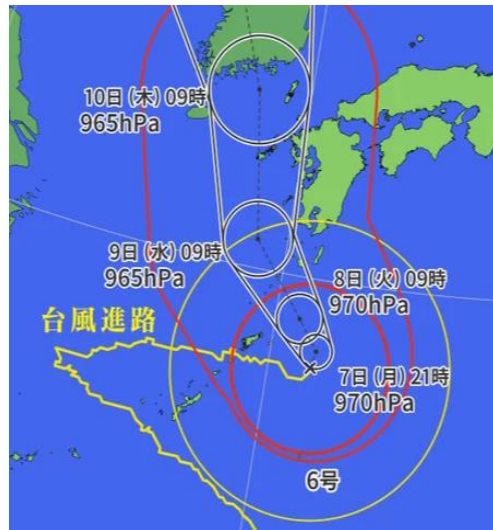


台風の進路の変化

昔の台風進路



Uターン台風



東北台風



46億年の地球環境

200万年の長雨



スノーボールアース



大陸中噴火



【まとめ】

「自然現象」 + 「人」 = 「自然災害」

自然現象は、大地や海を豊かにし新たな生命を生み出す地球の活動で、その中に人が関わってしまふと災害になる。地球環境は変わるものだと思え、人がそれに備える必要がある。

03

「地域社会」の今と昔の比較

昔の地域社会 “足りない” が当たり前だから、「協力する文化」

米づくりに“八十八の手間”



結（ゆい）の精神



お祭りや災害時も
“支え合い”が文化



今の地域社会 “便利” になった代わりに、「人がいなくなった文明」

田植えも収穫も機械で少人数化



地域行事・お祭り担い手不足



隣人の顔がわからない



文明が足りないと文化が進み、文明が進むと文化が衰退する

【文化】

モノや制度が未整備な時代、
人は人間関係や信頼で問題を
解決するしかなかった



【文明】

情報や物流、制度が整い、
「人の手を借りなくても生
活できる」社会になった



昔：平時と有事の差があまりない

今：平時と有事の差がある

	文化（関係性）	文明（効率性）
昔	○（自然発生的・持続性）	△（労力多く非効率）
今	△（希薄・任意性）	○（情報・物流の高速化）

【まとめ】

「文化の関係性」＋「文明の効率性」＝「新たな連携」（心と技の融合）

04

「支援」の今と昔の比較

昔の支援 「日常の助け合い」と「生き延びるための共有」



支援者

- ☑ 情報が少ない。
- ☑ 移動手段が乏しい。
- ☑ 近隣地域から。



被災者

- ☑ 生活水準が低い。
- ☑ 寝具、食事で十分。
- ☑ 支援というより生きる為の共有。

今の支援 「期待と基準」が生む「多様な支援」のかたち



被災者

- ☒ 生活水準が高く、ギャップを感じる。
- ☒ 多種多様な人々。
- ☒ プライバシーや心理的安全も必要。



支援者

- ☒ SNSで情報発信できる。
- ☒ 全国から多様な支援。
- ☒ 専門支援チームがある。

“人の支援” から “仕組みの支援” へ



被災者 （支援）

生活水準が高くなり、平時と有事の差を強く感じるようになっている。
必要とされる支援が多様化した。



支援者 （支援）

支援も便利な道具や制度が増えて高度化した。多様な支援が可能になった。

【まとめ】

「支援」と「受援」をつなぐ“連携の仕組み”が必要

05

「連携」の今と昔の比較

昔の連携「地域単位」

家族・隣近所・地域での支え合いが“日常の延長”として連携



自然と生まれる “顔の見える関係”

- 声をかけが当たり前
- 災害時も普段の関係が“支援”に
- ルールや協定がなくても
人と人の信頼で動いた

今の連携「広範囲で多様」

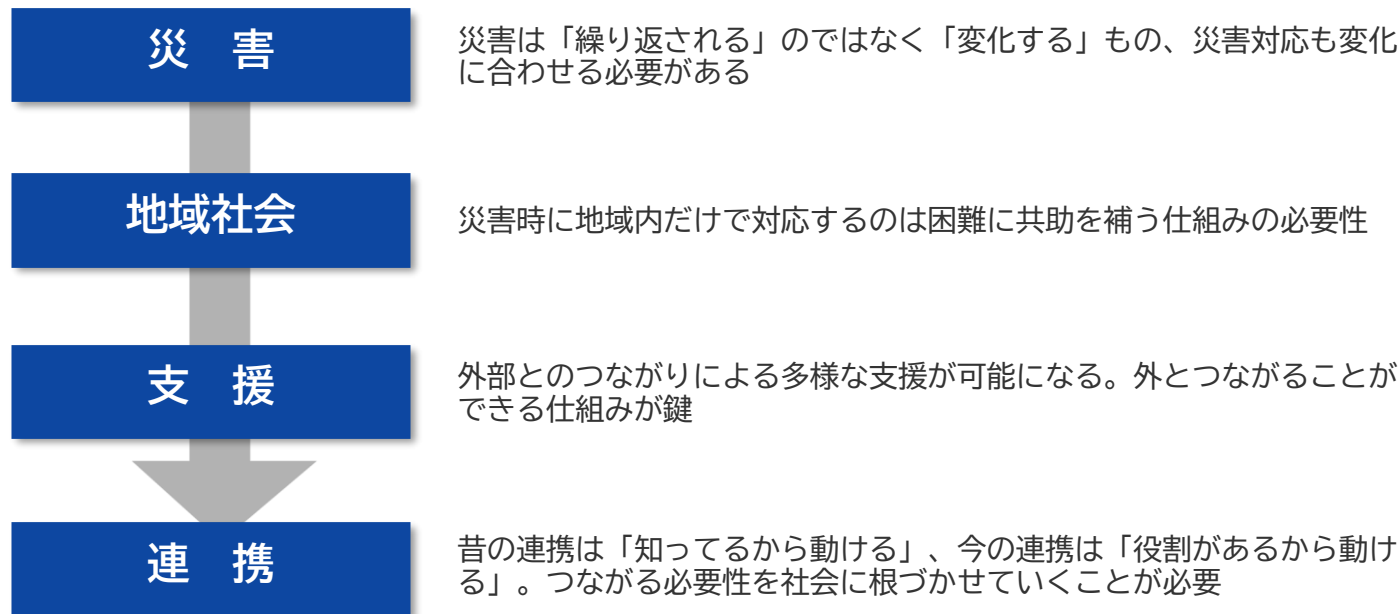
行政・社協・NPO・企業など、立場や役割が異なる中で、計画的な連携



多様化・制度化された “仕組みの中の協働”

- 協定・マニュアル・ネットワーク会議
- 専門性を活かす役割分担
(行政／社協／企業／NPO)
- 顔が見えにくい → 中間支援の役割が重要に

つながりの変遷（へんせん）から考える被災者支援



06

連携事例

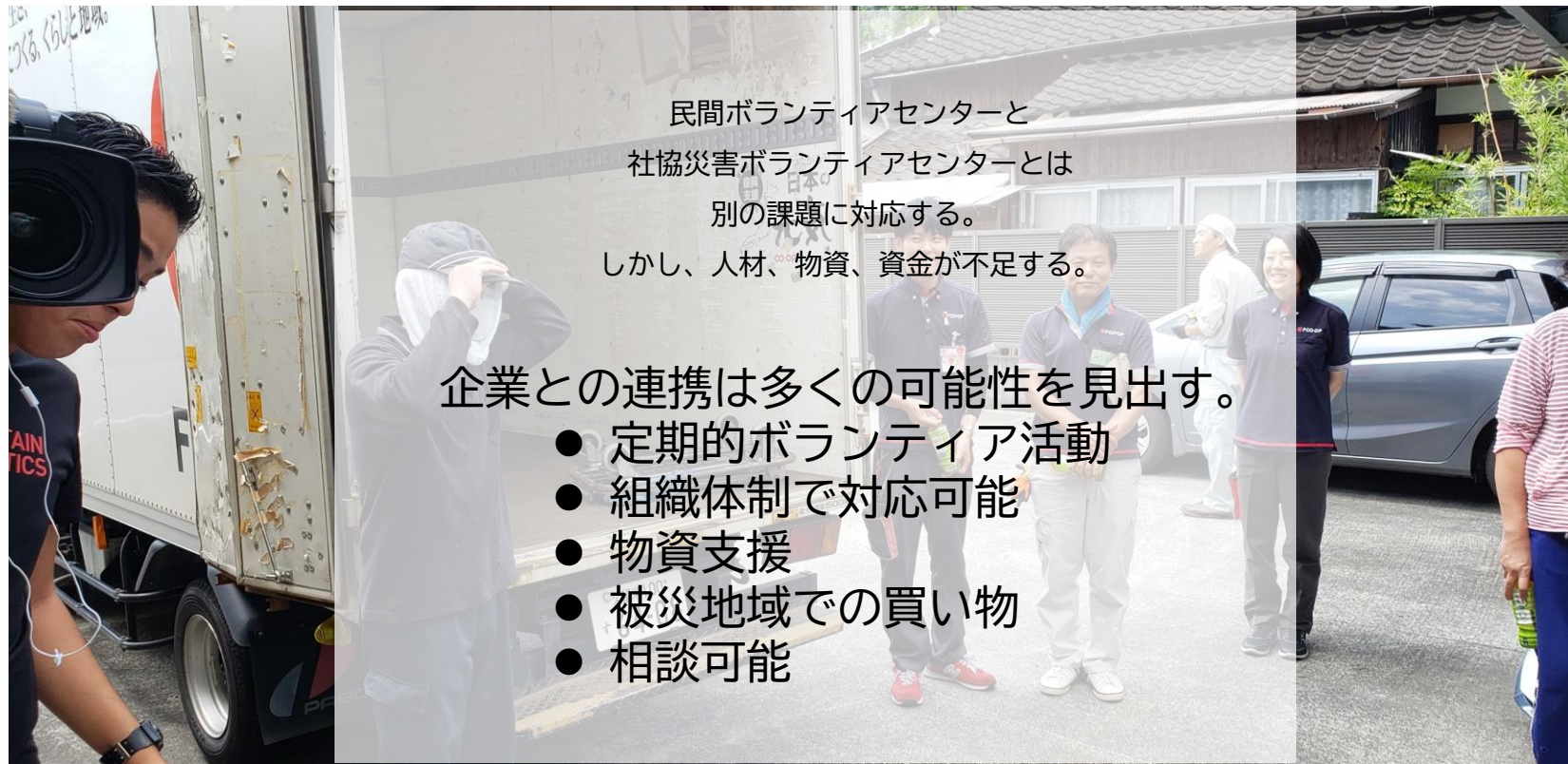
令和元年8月の大雨にて広川町で災害発生

- 広川町社会福祉協議会が浸水
- 車両14台中13台浸水



社会福祉協議会 + 八女ライオンズクラブ

6. 連携事例



地域（民間ボランティアセンター） + 企業

学生との連携は地域に未来を創造する。

- 定期的ボランティア活動
- イベント企画
- 継続性
- 地域の活性化

地域（民間ボランティアセンター）× 学生

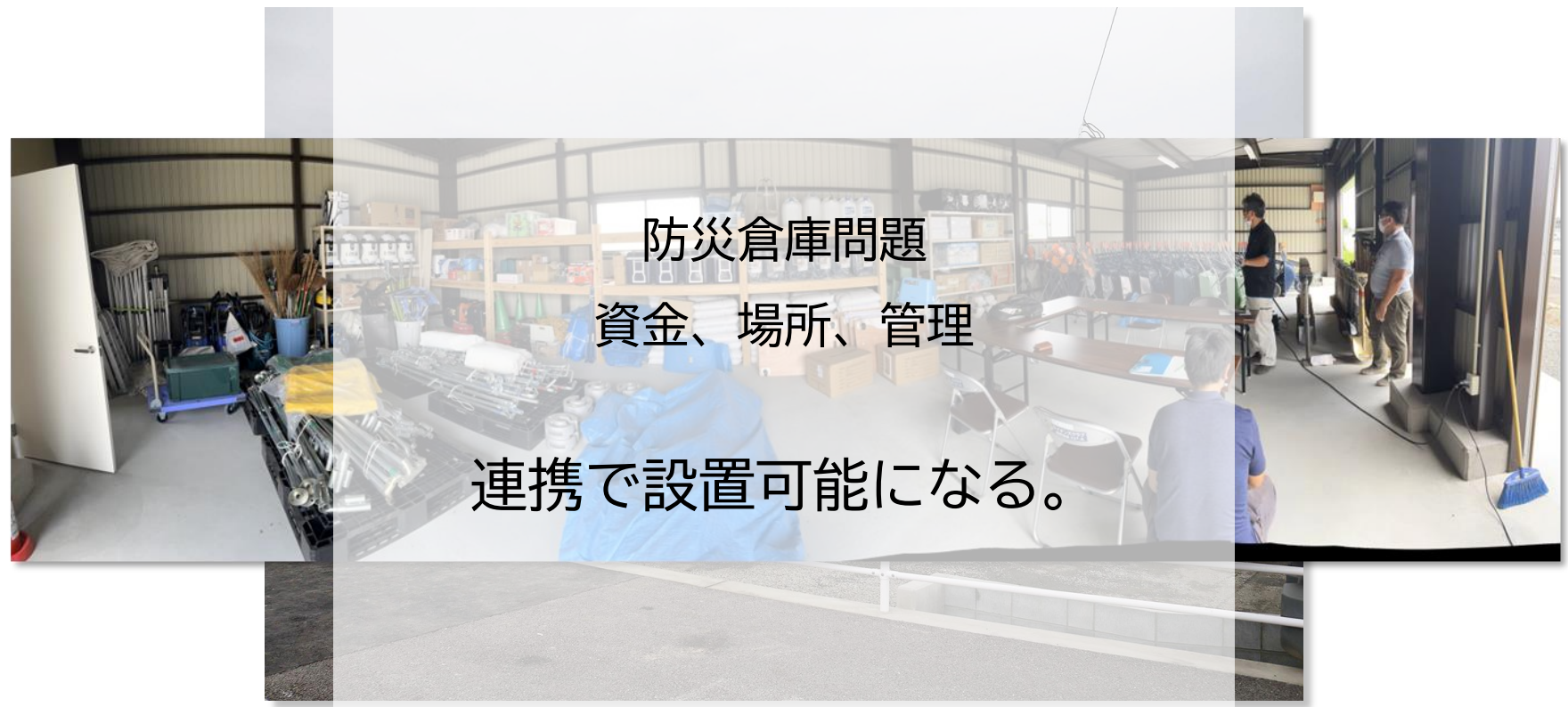
農場は業であり、個人利益になる。

よって、支援が少ない。

自然を利用して業をする農業は災害に弱い。

農業と企業は同じ業仲間
どちらにとっても利益がある。

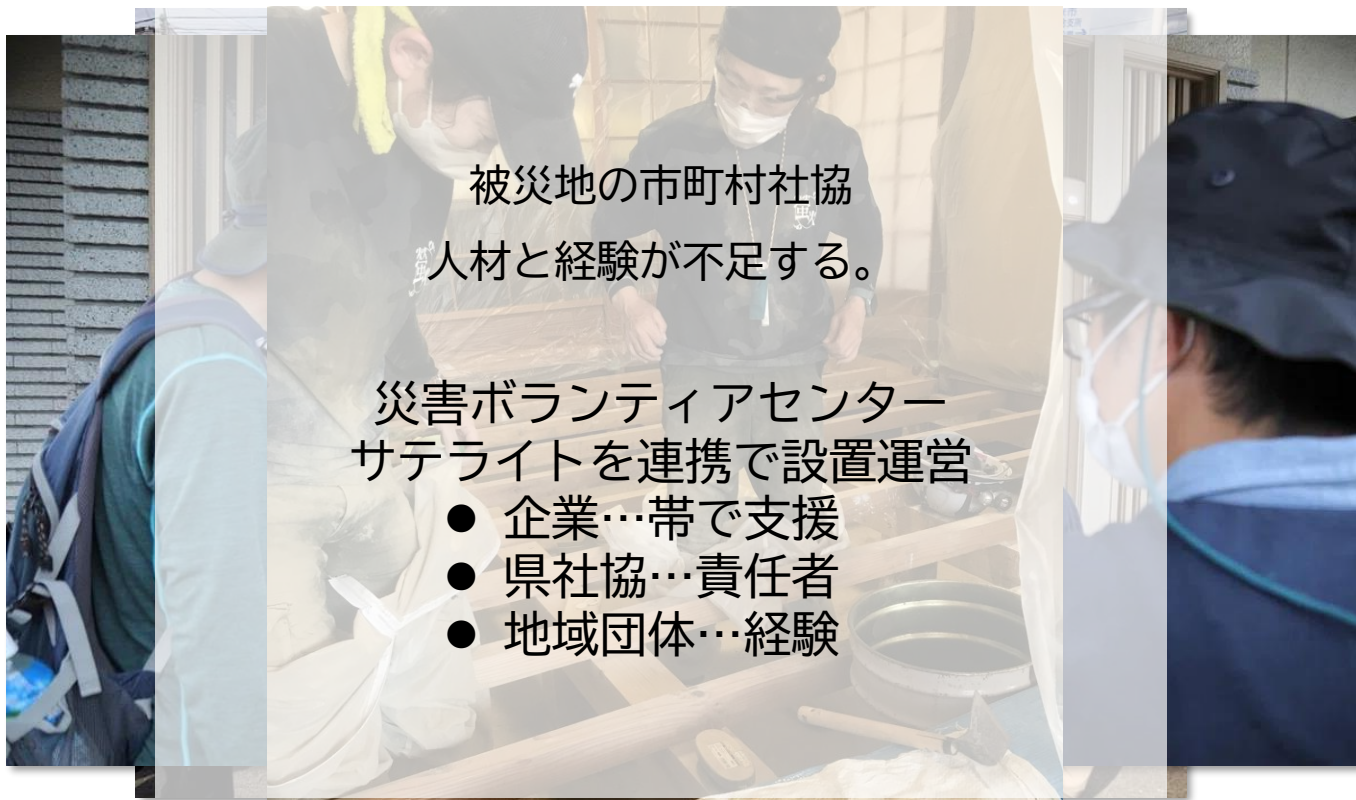
- 美味しい支援
- イベント企画運営
- 失敗が無い
- 職場で支援



防災倉庫問題
資金、場所、管理

連携で設置可能になる。

行政 + 社協 + ライオンズクラブ + J C I



社協 + 企業 + 地域団体（＃、螢火、Camp）

07

「未来」に向けて

7. 「未来」に向けて



災害支援ふくおか広域ネットワーク

DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA



災害支援
ネットワーク
「つながり」
「多様性」
「関心」



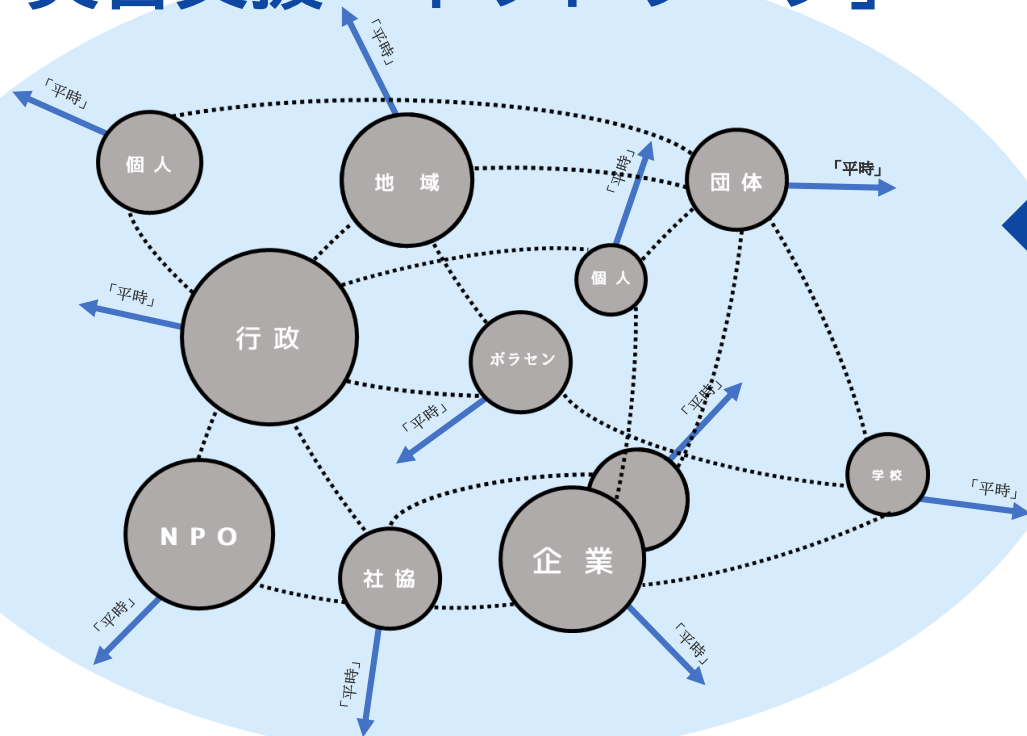
災害中間支援
組 織
「持続性」
「専門性」
「関係」

つながり
続ける
支援活動



補完性の重要性「新たな連携」

災害支援「ネットワーク」

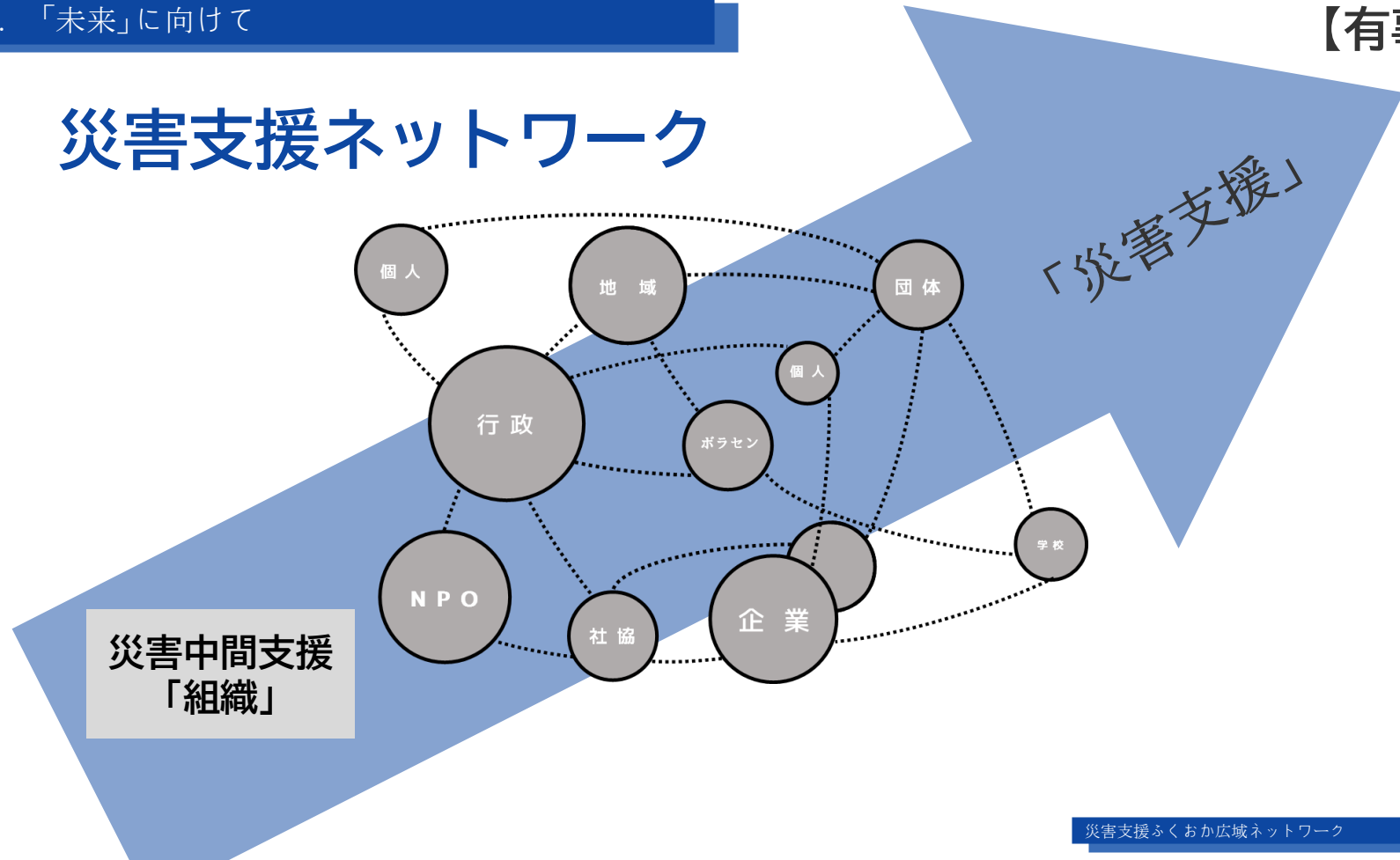


事務局

災害中間支援
「組織」

- ・ ネットワーク事務局
- ・ プロボノ育成
- ・ 防災啓発
- ・ シンクタンク

災害支援ネットワーク



令和7年度_災害支援の新たな連携

- 新たな「ネットワーク」(F-Ring)
- 新たな「組織」(NPO法人取得)